

# サンタクロース・ラリー（2021年12月27日～2022年1月4日）

Santa Claus Rally			
Last 5 Days of Year + 1st 2 of New Year			
New Year	SCR	Year	
1994	-0.1%	-1.5%	Flat
1995	0.2%	34.1%	
1996	1.8%	20.3%	
1997	0.1%	31.0%	
1998	4.0%	26.7%	
1999	1.3%	19.5%	
2000	-4.0%	-10.1%	Bear
2001	5.7%	-13.0%	1st 5 Days Down, 9/11
2002	1.8%	-23.4%	JB Down, Iraq War Resolution
2003	1.2%	26.4%	
2004	2.4%	9.0%	
2005	-1.8%	3.0%	Flat
2006	0.4%	13.6%	
2007	0.0%	3.5%	
2008	-2.5%	-38.5%	Bear
2009	7.4%	23.5%	
2010	1.4%	12.8%	
2011	1.1%	-0.003%	All 3 Up, US Debt Downgrade
2012	1.9%	13.4%	
2013	2.0%	29.6%	
2014	0.2%	11.4%	
2015	-3.0%	-0.7%	Flat
2016	-2.3%	9.5%	Mini Bear 2/11
2017	0.4%	19.4%	
2018	1.1%	-6.2%	All 3 Up, Fed Rate Hikes
2019	1.3%	28.9%	
2020	0.3%	16.3%	
2021*	1.0%	25.8%	

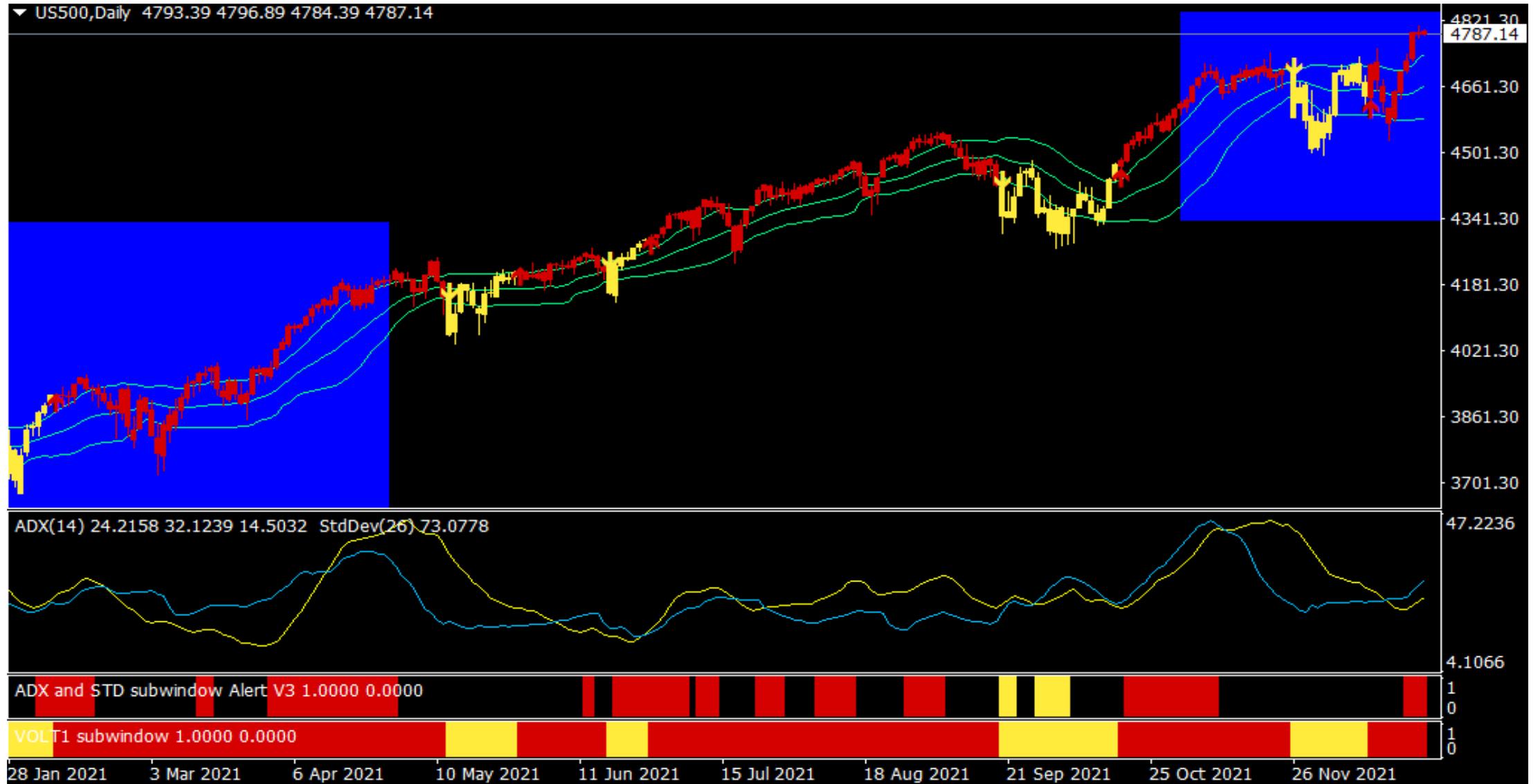
Based on S&P 500 \* As of Close December 23, 2021

© Hirsch Holdings Inc. and StockTradersAlmanac.com. All rights reserved.

サンタクロース・ラリー（2021年12月27日～2022年1月4日）は、1972年にエール・ハーシュが定義したもので、「1年の最後の5取引日と新年の最初の2取引日」を指す。この短い期間のラリーは、通常、S&P500で+1.3%程度の利益をもたらしている。

サンタクロース・ラリーが注目されているのは、2022年を占う意味でも重要なアノマリーとされているからだ。2000年と2008年の弱気相場はともにサンタクロースが現れなかった。サンタクロース・ラリーがなかった年は弱気相場になり、年の後半に株価が大きく下落したりする傾向がある

# S&P500CFD (日足)



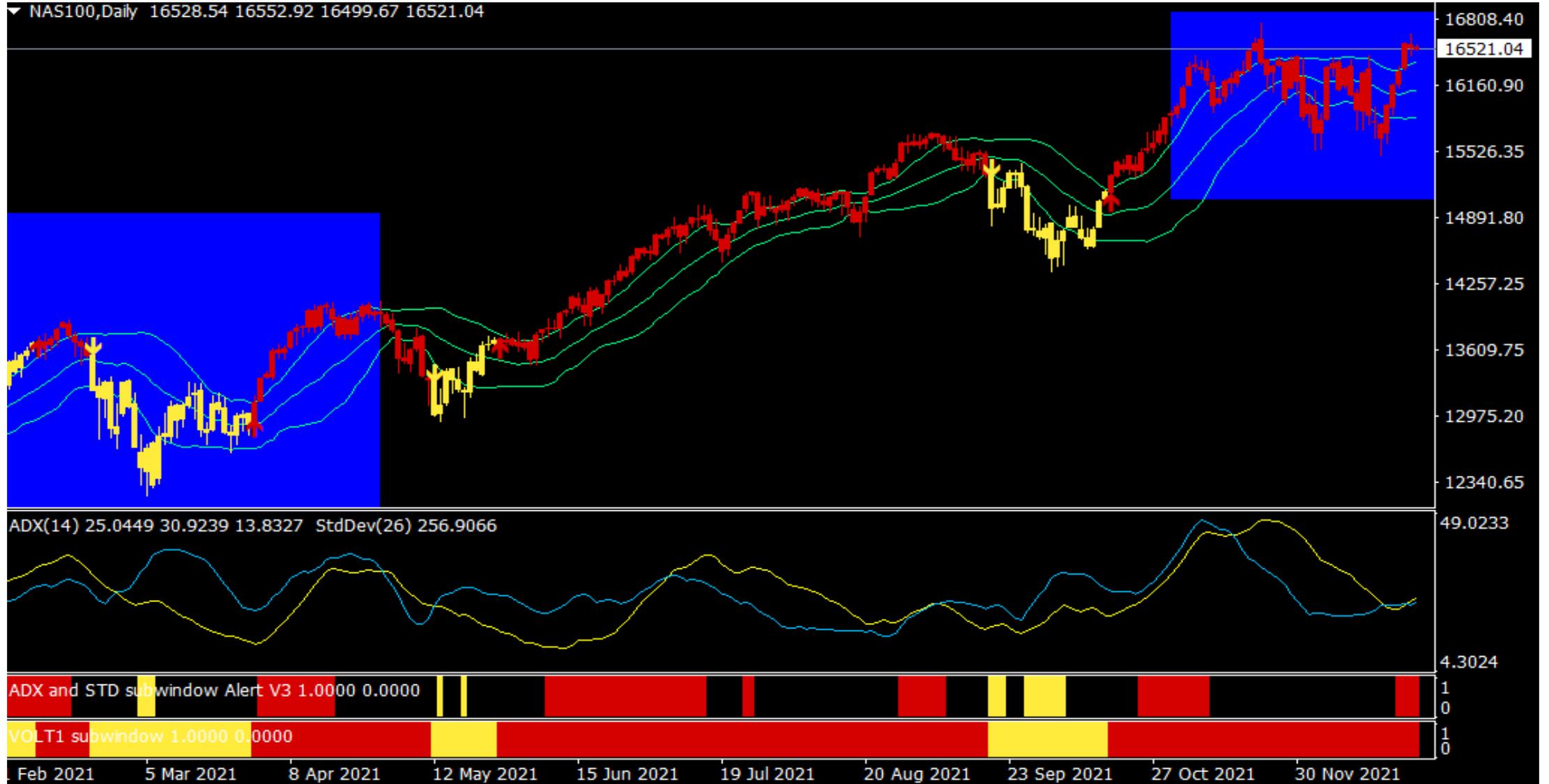
出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# NYダウCFD (日足)



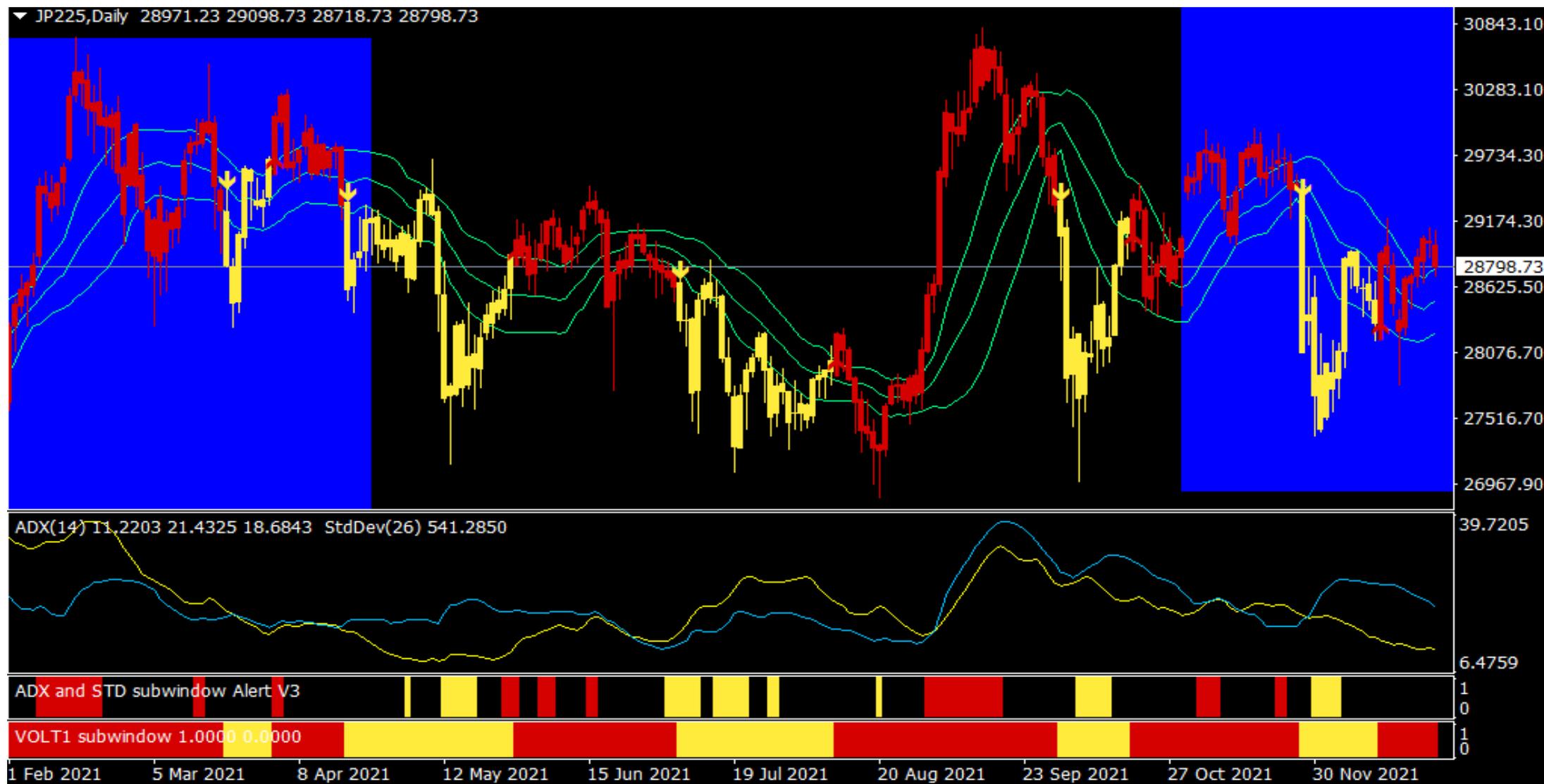
出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# ナスダック100CFD (日足)



出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# 日経平均CFD (日足)



出所：楽天MT4・石原順インディケーター



## 石原順（西山孝四郎）

1.4万 件のツイート



かのぴー @kanouchi · 19時間

若者の投資は消費感覚 楽天証券・楠社長に聞く：日本経済新聞

若い個人投資家が日本株に注目するようになるには、売買単位を現在の100株から1株へと引き下げるような改革が必要であるように思う。



nikkei.com

若者の投資は消費感覚 楽天証券・楠社長に聞く  
新型コロナウイルスが登場した2020年以降、新たに株式投資を始める若年層が増えた。2021年は個人投資家にどのような動きがでてきたの...



2



7



39

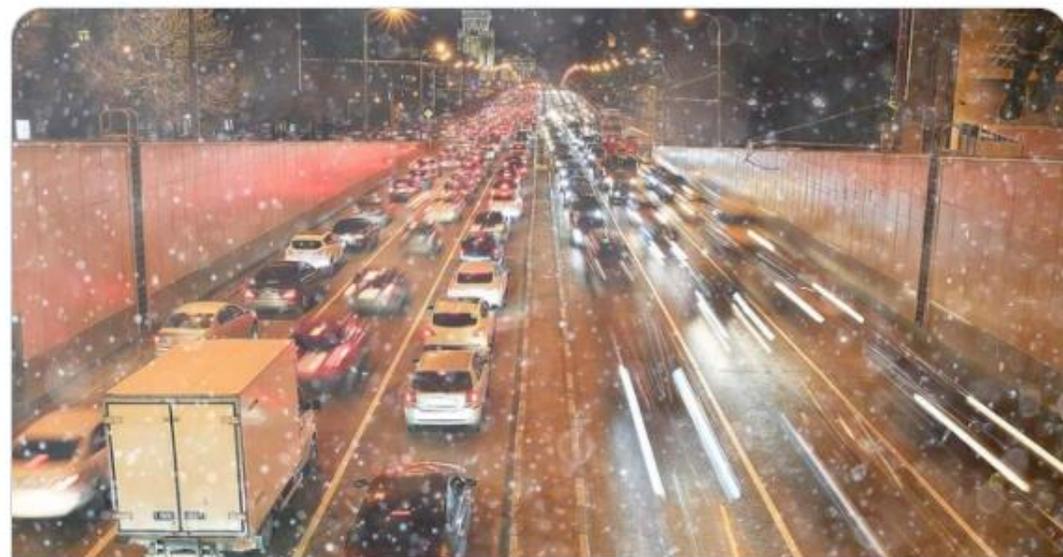


石原順（西山孝四郎） @ishiharajun · 12月26日



貧困が急増「所得200～300万円未満が最多」日本人のリアル - ライブドアニュース

カネをばら撒くより減税を！



news.livedoor.com

貧困が急増「平均所得200～300万円未満が最多」日本人のリアル  
コロナ禍、実生活と景況は大きく二分され、日本、そして世界全体の格差が浮き彫りになりました。データを見れば、日本の辛い実態が明ら...



2



25



95



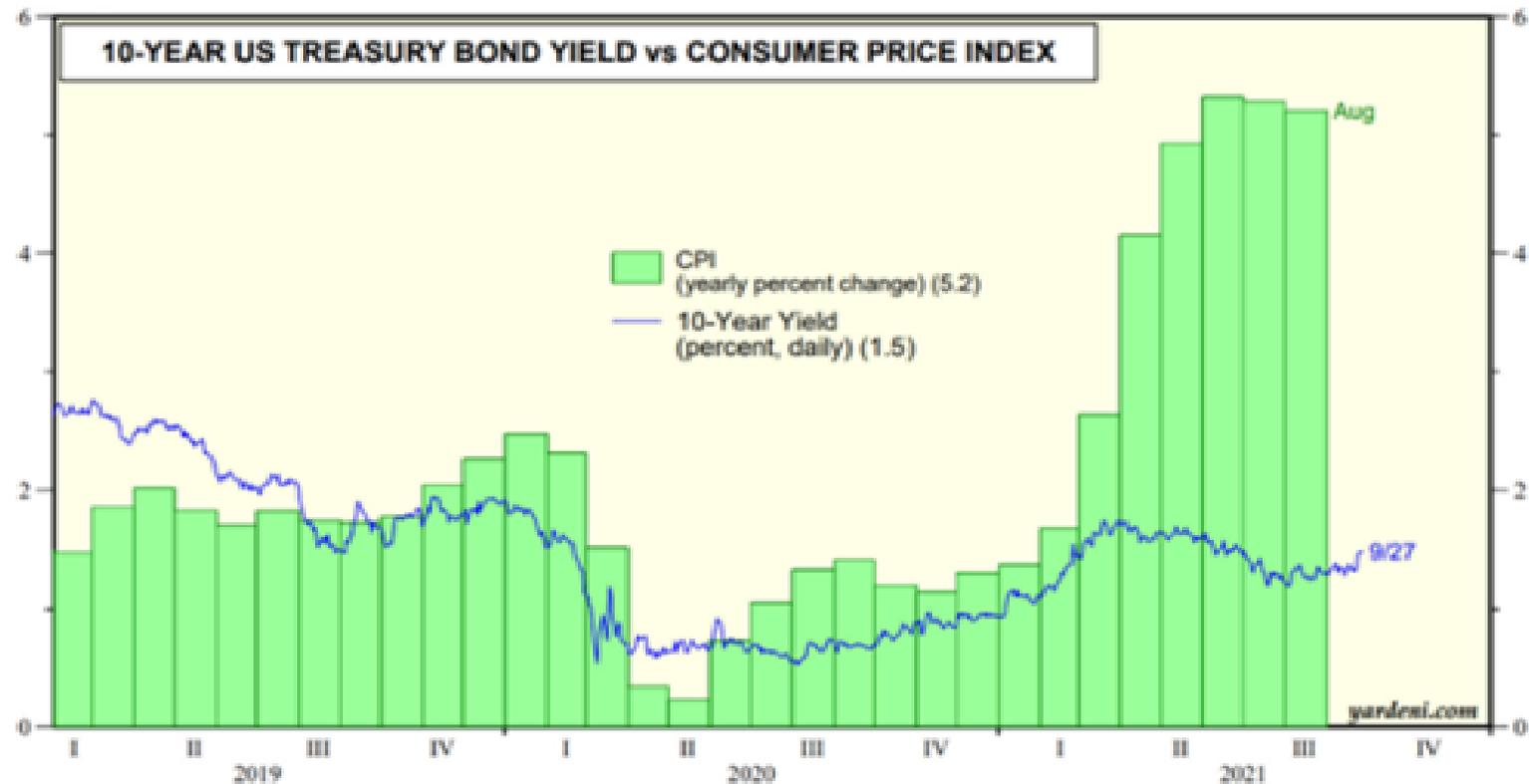
出所：Twitter

# 2022年相場の問題点

- 1 : 金融引き締め
- 2 : 中央銀行が金融緩和を減速し、世界的に流動性が低下
- 3 : これまでの金融緩和が弱まり、経済における流動性が低下する
- 4 : インフレ率の上昇により消費が減少
- 5 : 経済成長の鈍化
- 6 : インフレによる消費者信頼感の低下
- 7 : イールドカーブのフラット化
- 8 : 収益の伸び悩み
- 9 : 利益率の圧縮
- 10 : ほとんどの経済データの前年同期比が弱くなる。

# エド・ヤルディーニの「戦慄のチャート」 米国長期金利 VS 消費者物価指数

図 29 エド・ヤルディーニの米金融政策の戦慄のチャート

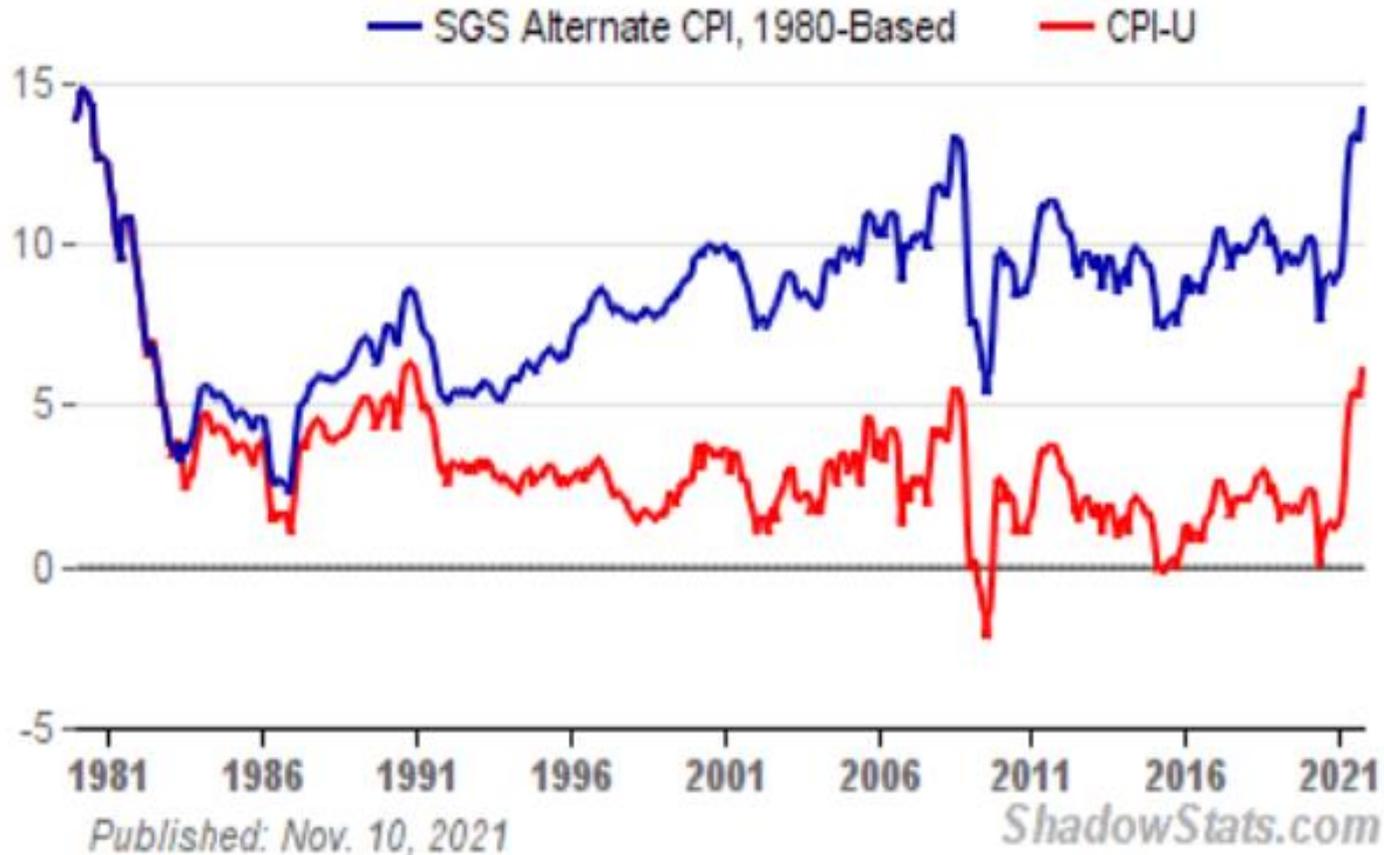


出所：Ed Yardeni, [www.yardeni.com](http://www.yardeni.com)

出所：マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート（パンローリング）

# FRBは何年も前からインフレについて嘘をついていた！？

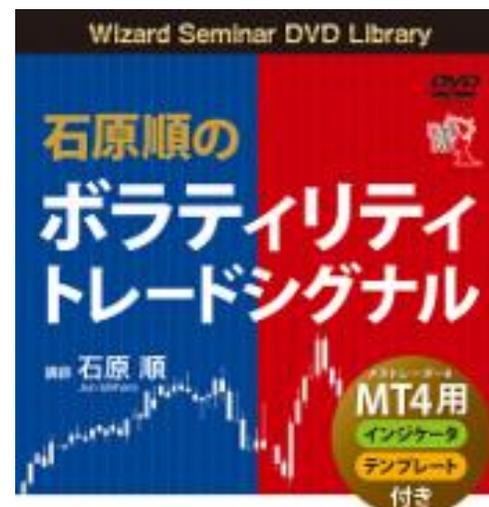
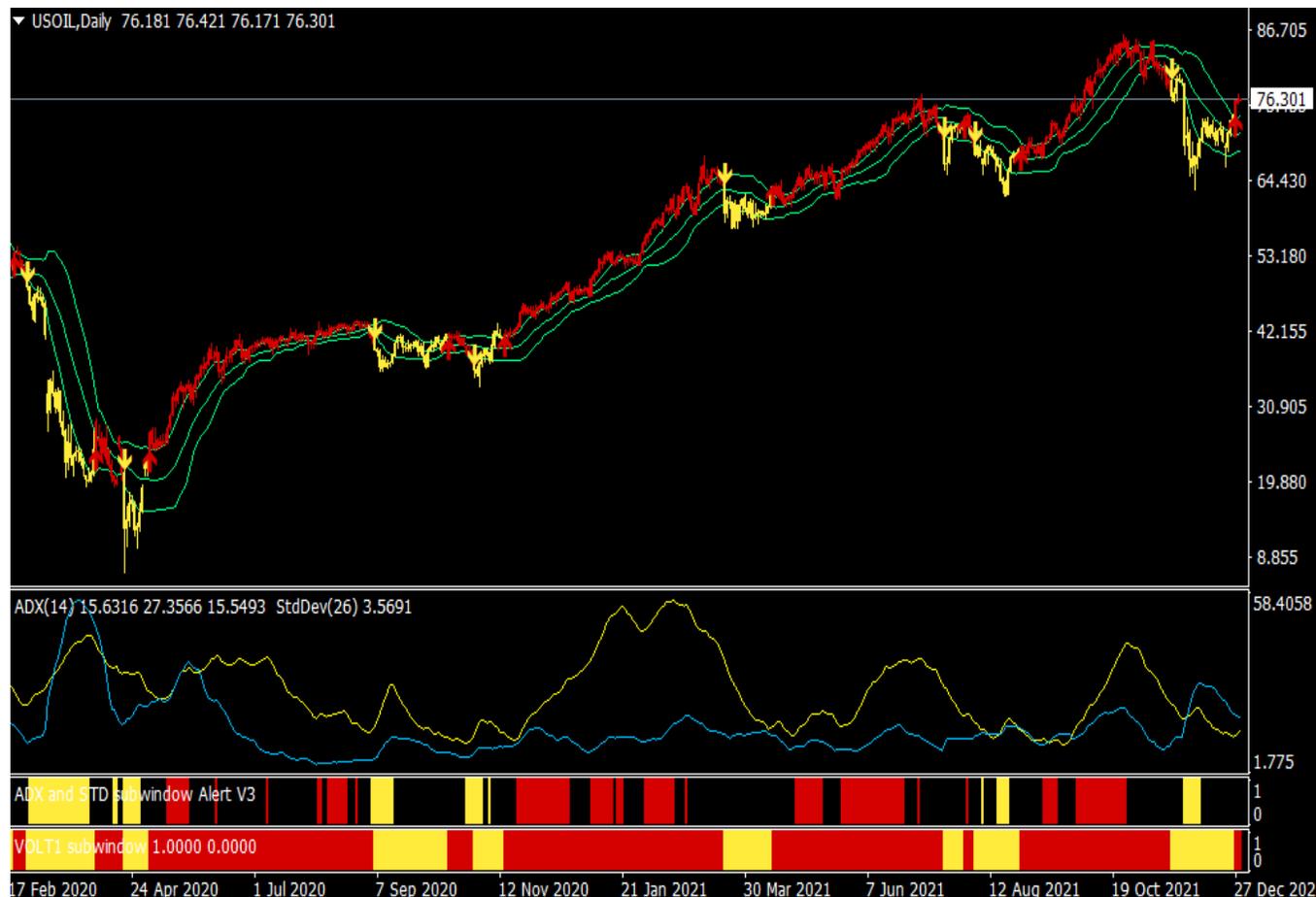
Consumer Inflation - Official vs ShadowStats (1980-Based) Alternate  
Year to Year Change. Through Oct. 2021



例えば、1980年代にFRBがCPIインフレ率の測定に使用していた加重方法を現在も使用していたとしたら、米国のCPIインフレ率は報道されている6%ではなく、15%に近い値になっていただろう。

出所：ShadowStats

# NY原油CFD (日足)



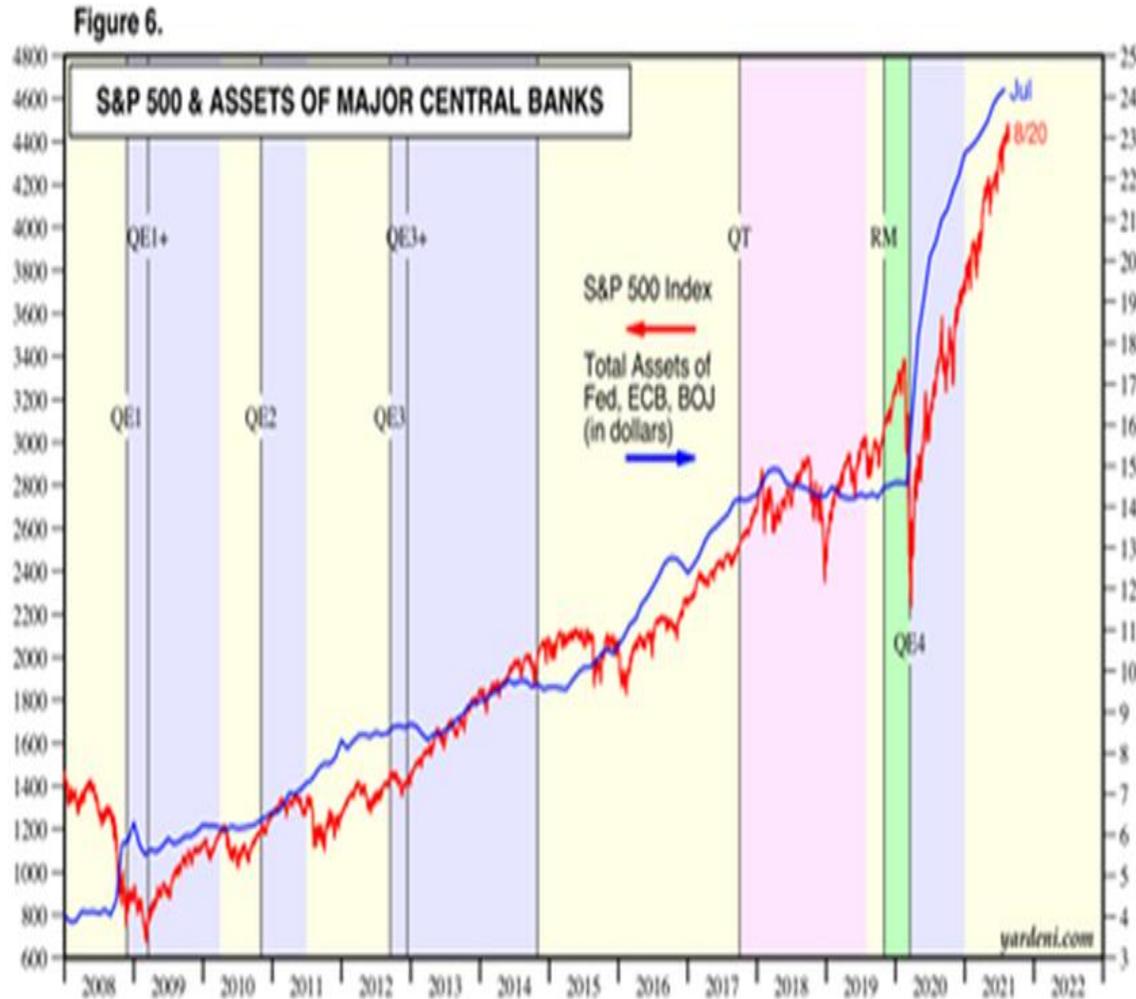
- ① 売買トレンドが色で表示できる
- ② 売買シグナルが矢印で表示できる
- ③ ポップアップと音で売買シグナルが確認できる



- 1 大相場を逃さないトレンドフォロー
- 2 細かいノイズを排除したドテンシステムを採用
- 3 損小利大を実現するトレードロジック

出所：楽天MT4・石原順インディケーター

# それは実行中のプログラムであり、軌道上を走るだけだ



出所：ゼロヘッジ

すべての市場の下落は、FRB のバランスシートの縮小または一時停止と一致しているように見える。

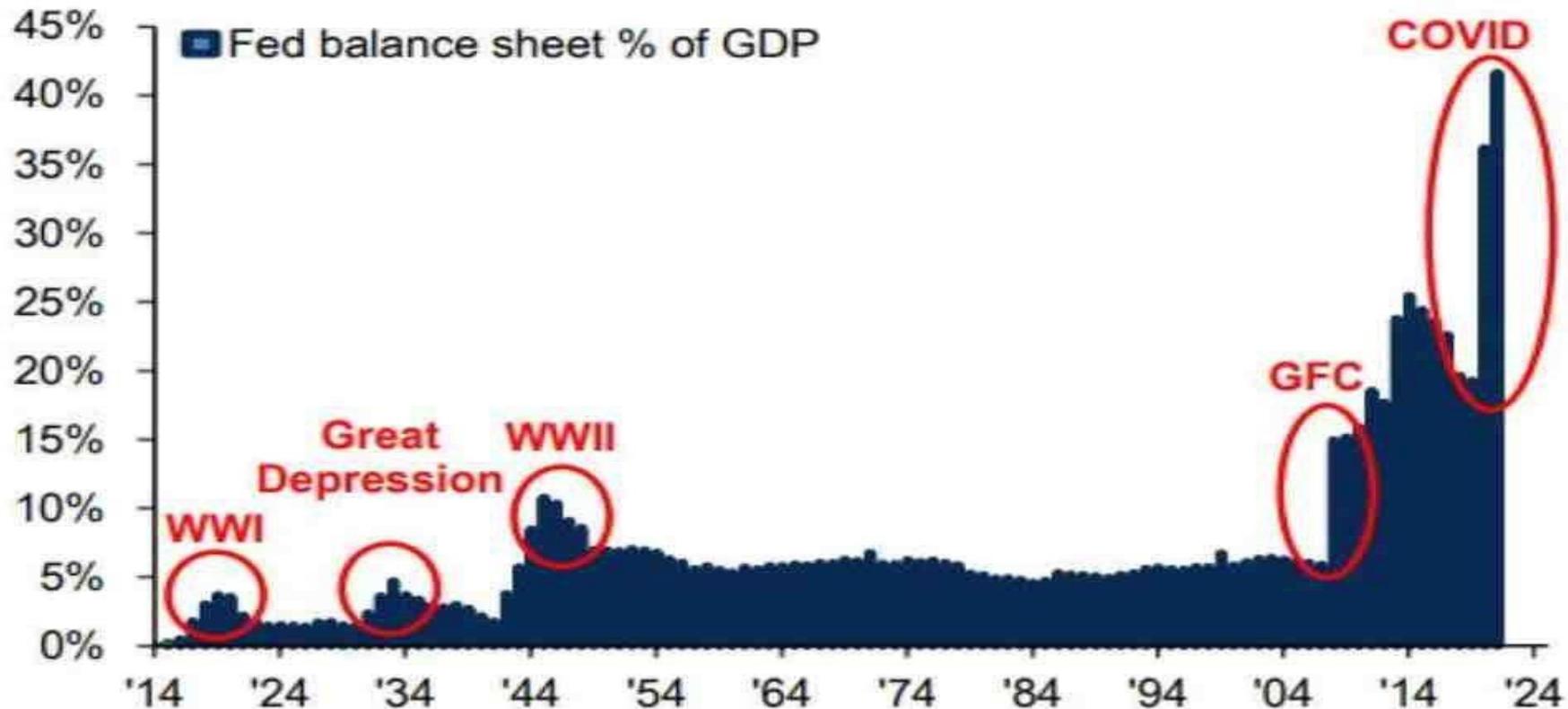
いや、何百万人もの個人投資家の判断によって動かされているはずの市場が、毎月同じことを繰り返しているのは市場ではない。それは実行中のプログラムであり、軌道上を走るだけだ。

中央銀行の介入によって資産価格が経済から切り離され、所有者層に有利になる範囲と期間には限界があるのか、それとも限界はないのか。もし限界がないのであれば、この列車は永遠に続き、富の不平等は拡大し続け、自由市場での価格発見や創造的破壊の概念は、もはや市場や経済とは無関係になってしまう。

限界があるとすれば、コントロールを失ったときには壊滅的な打撃を受け、より大きな平均への回帰が歴史的な崩壊をもたらすことになるだろう。

# FRBのバランスシートはGDPの42%の水準まで拡大 オミクロン騒動は原油下落の思惑と緩和余地の確保

Chart 9: Fed balance sheet to hit 42% of GDP...

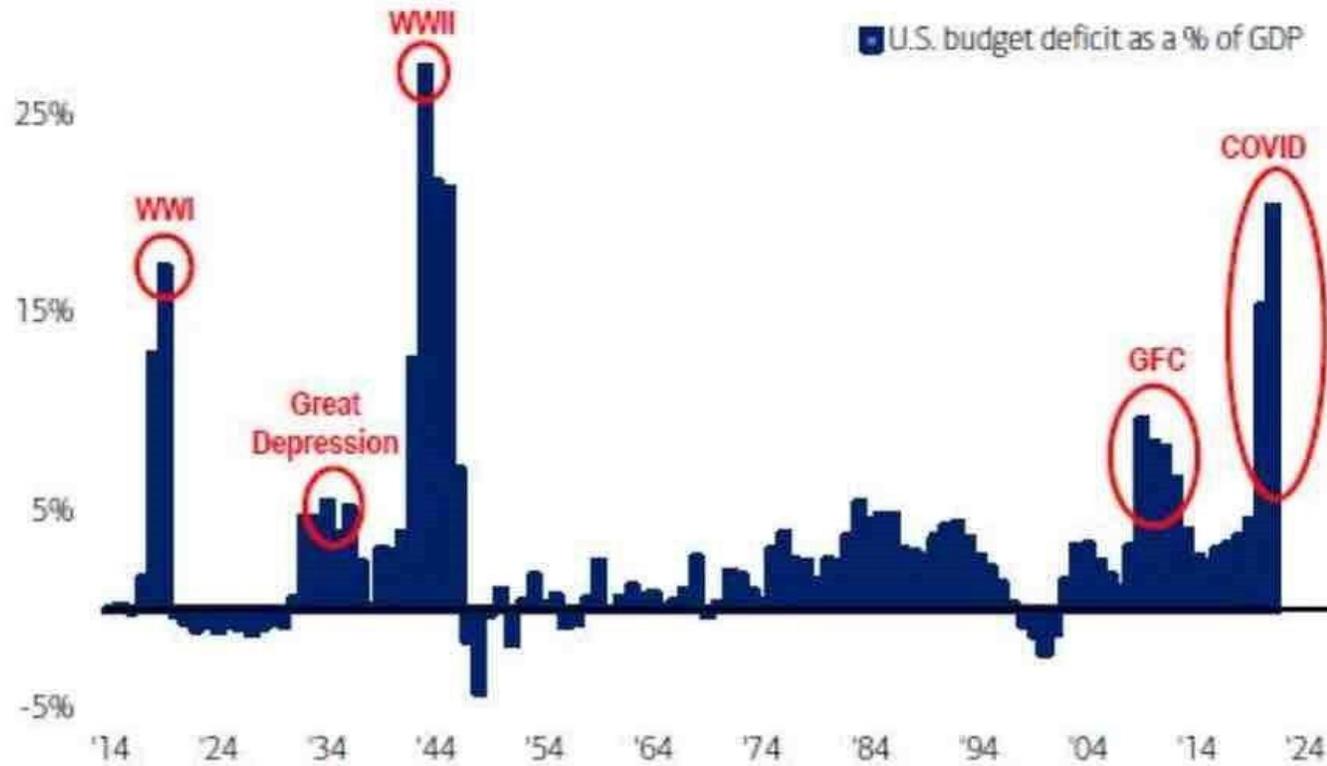


Source: BofA Global Research, GFD, Haver

出所：ゼロヘッジ

# GDP（国内総生産）に対する米国の財政赤字の割合

Chart 7: Peak fiscal stimulus  
U.S. budget deficit as % of GDP



Source: BofA Global Investment Strategy, CBO, Haver

BofA GLOBAL RESEARCH

FRBが市場に全面的に介入し、膨大な量の負債が追加され、政治的な状況は巨大な混乱に陥っている。残っているのは、旧態依然としたカジノ化した市場にけん引された「仮想的な富の効果」だけだ。

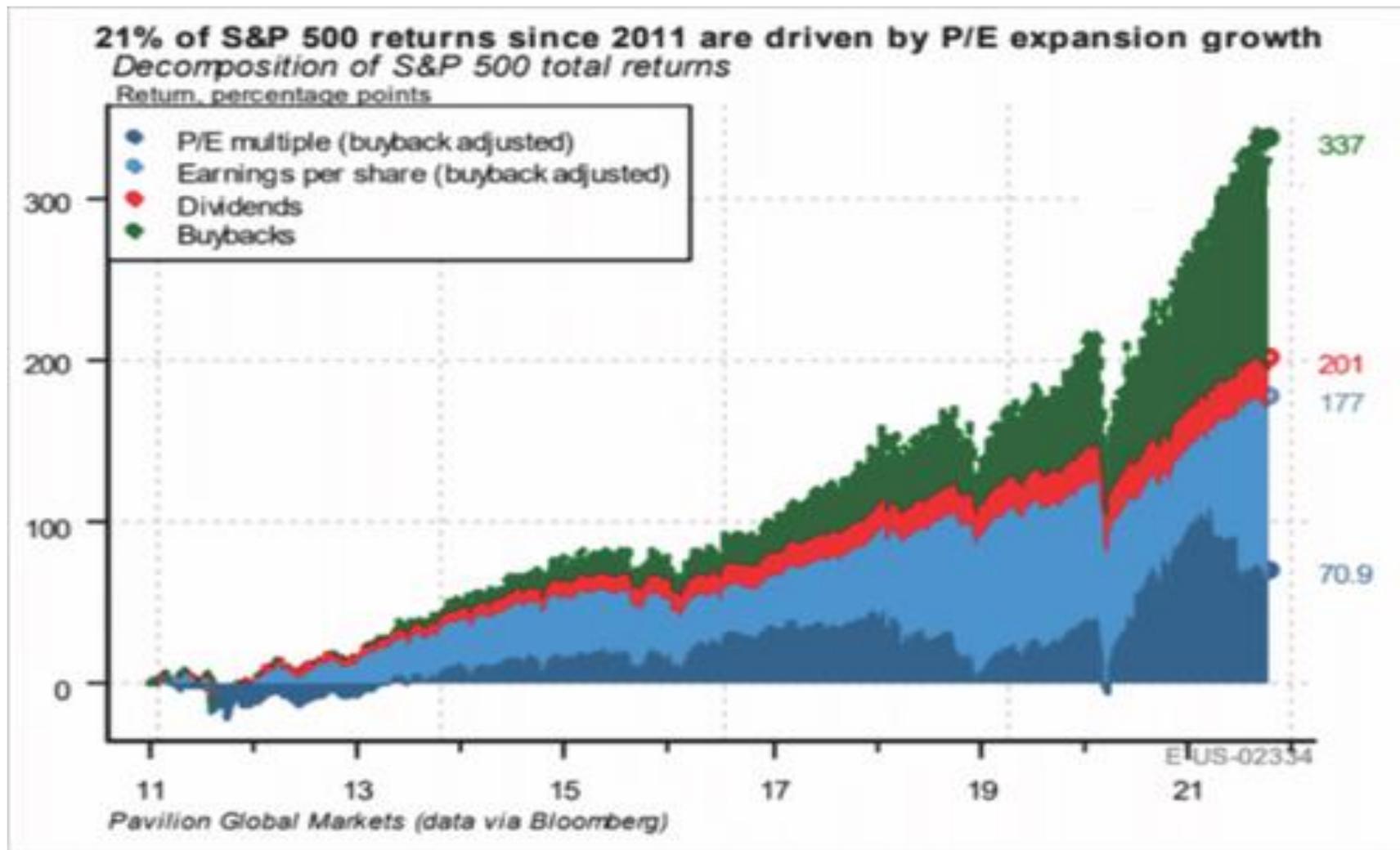
資産と負債を際限なく膨らます「両建て経済」でカジノ化した市場の怖さは、「相場が急落すると資産は減るが、負債は減らない」ということだ。

## 金利が上昇すると・・・

- ・ 金利が上昇すると、負債返済額が増加し、将来の生産的投資が減少する
- ・ 住宅販売の低迷。人々は家ではなく支払いを買う（借家を好む）
- ・ 借り入れコストの上昇は利益率の低下を招く
- ・ 巨大なデリバティブ市場やクレジット市場にも悪影響が及ぶ
- ・ クレジットカードやホームエクイティラインの変動金利の支払いが増加する
- ・ 債務不履行の増加は銀行に悪影響を与える
- ・ 多くの企業の自社株買い計画や配当金の支払いは、安い借金を利用して行われる
- ・ 企業の設備投資は、低い借り入れコストに依存している
- ・ 借り入れコストが急激に上昇すると、赤字/GDP比率が急上昇する

出所：Seekingalpha 「Could The Fed Trigger The Next "Financial Crisis"  
(FRBは次の「金融危機」を引き起こすかもしれない)」

# 過去 10 年間の自社株買いが市場に与えた影響： 40.5%が自社株買いによるものである。



2020年3月以降にあった多くの追い風が、今後は逆風になることだ。重要なのは、不経済な自社株買いを行った企業は、財務上の損失、負債の増加、将来の成長機会の減少に直面することである。

株価上昇に賭ける投資家にとって最も大きなリスクは、FRBではない。むしろ、「自社株買い」の逆転現象である。

# FRBの初期利上げは株価に影響を与えない！？

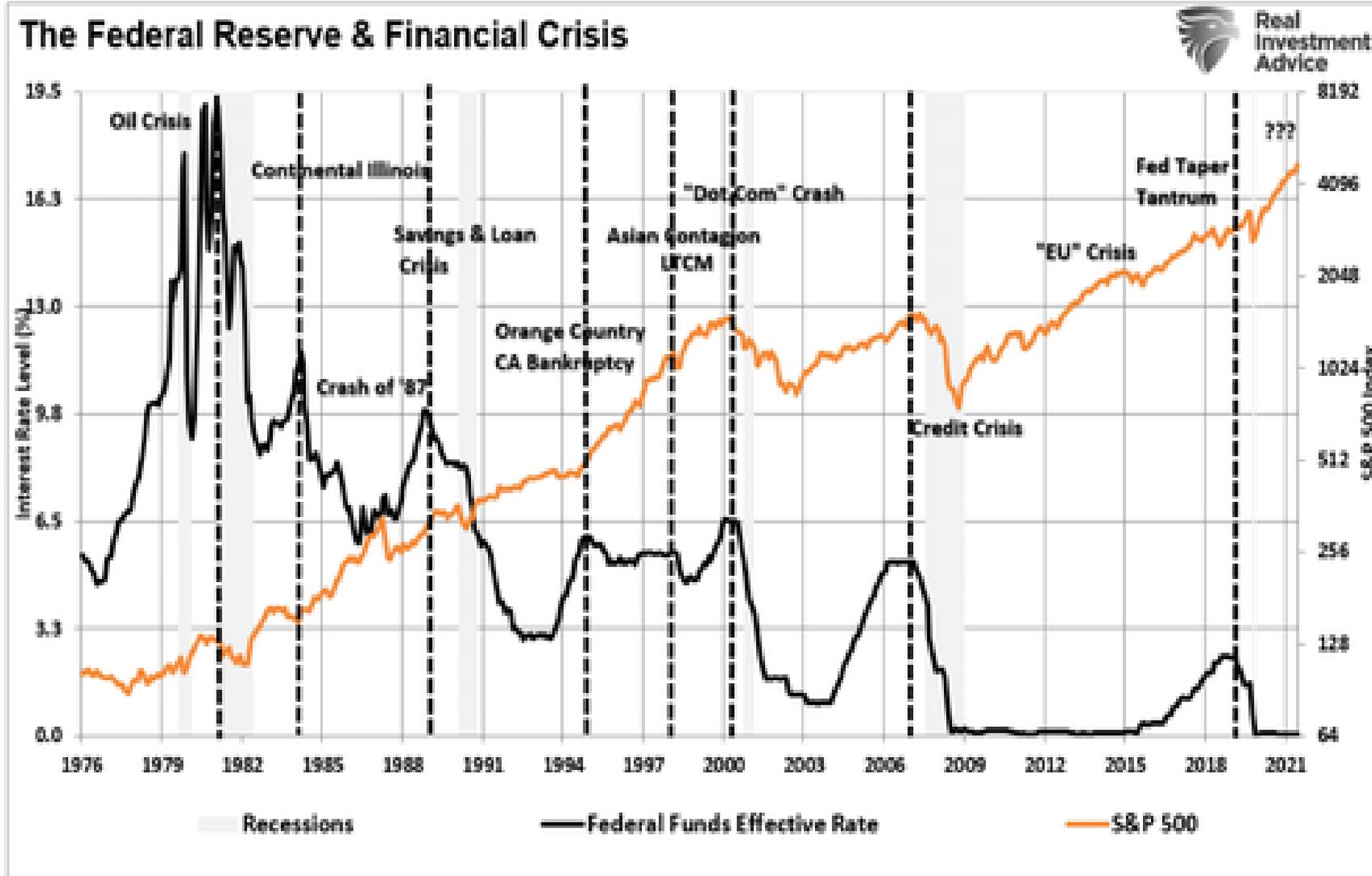
今後数ヶ月の間に、FRBの初期利上げが株価に影響を与えないことを示唆する記事を多く目にするようになるだろう。例えばこのようなものだ：

**FRB が引き締めサイクルの最初の利上げを行ったとき、S&P 500 は通常良い成績を収めている。**

**例えば、FRBは1999年6月30日に利上げサイクルに着手し、金利を1/4ポイント引き上げ、5%にした。S&P500はそこから7%上昇し、年間19.5%の上昇を記録した。」- フレッド・インバート、CNBC**

**その通りである。FRBが最初に利上げを開始するときは、通常、強いトレンドの強気市場のときである。ニュートラルで坂道を転げ落ちる車のように、最初はブレーキを踏んでも勢いを抑えることはできない。しかし、ブレーキペダルを長く踏み続ければ、車は減速して停止する。**

# 下のチャートから得られるものは2つある。

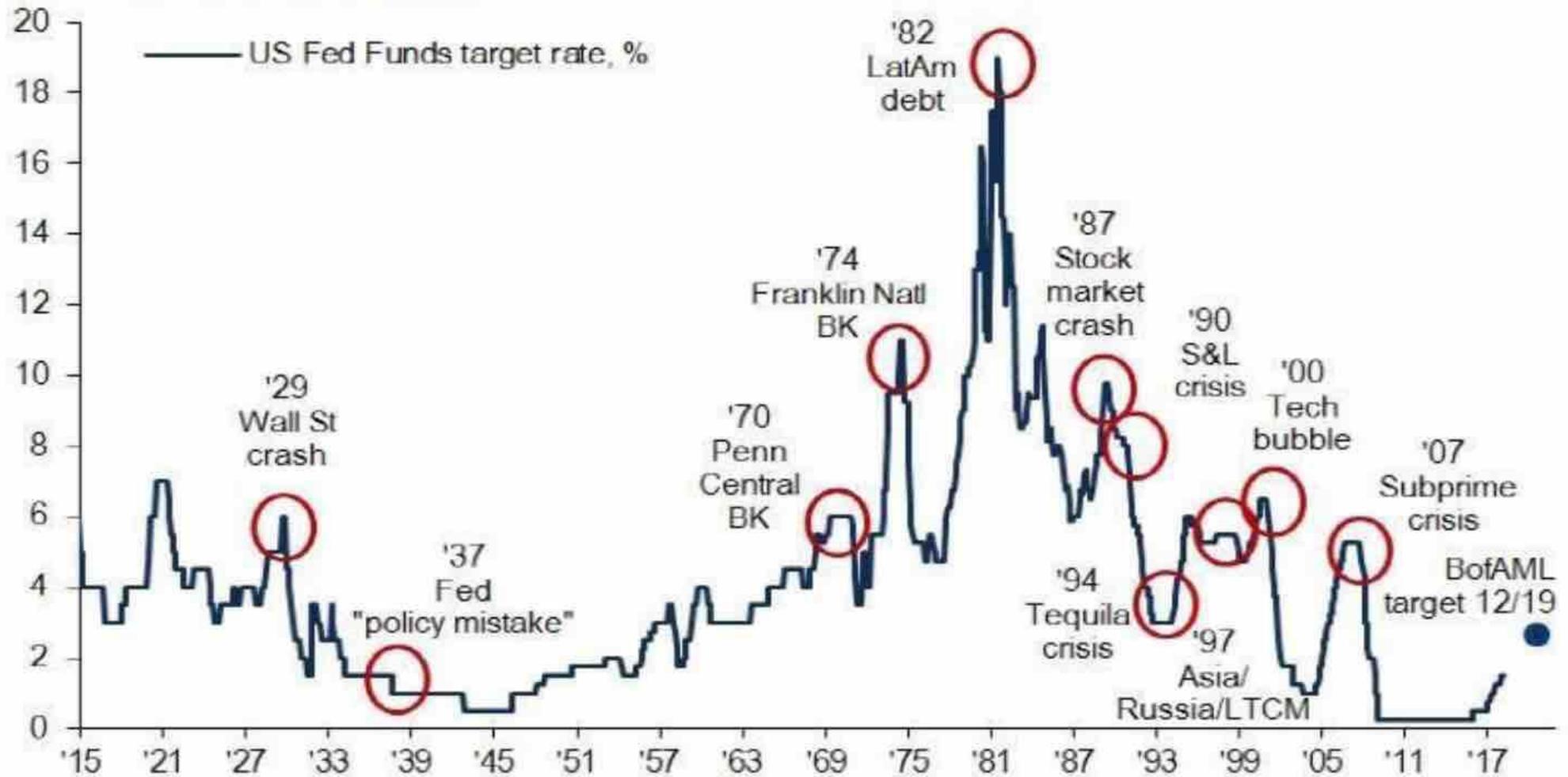


リスクは最初の利上げでもなく、2回目の利上げでもなく、株式にとっては3回目の利上げでもない。金利の上昇によって、経済や信用市場、あるいは強気心理の変化など、何かが崩れる点である。第二に、例外なく、利上げキャンペーンはマイナスの結果をもたらした。しかも、その悪影響は一貫して低い水準で発生している。

つまり、FRBが利上げを行った1999年に株価が7%上昇したのはフレッドの言う通りだが、利上げを終えた2000年には、その後2年間で株式市場は50%近く下落したのである。

# FRBの金融引き締めとバブル崩壊

Chart 25: How Fed tightening cycles end



Source: BofA Merrill Lynch Global Investment Strategy, Bloomberg

**為替相場の落とし穴！？FRBはこの異常な金融政策を  
どうやって解消することができると考えているのだろうか？**

**2022年相場は決め打ちせずに相場についていくことが重要！**

**FRBはこの異常な金融政策をどうやって解消することができると考えているのだろうか？2008年以降、それができなかった。2008年以降はできなかったのに、今はどうやってできるのだろうか？**

**歴史的に見ても、金融政策の正常化に本格的に舵を切るとするのは幻想に過ぎない。**

**FRBは好きなだけ話をする事ができる。しかし、ことわざにもあるように、「口は災いの元」だ。中央銀行には何ができるのか？**

出所：ゼロヘッジ「権力に酔う権威主義者たち：今こそ政府を再調整する時だ」